

## 2022年 1月 浜松聖書集会のご案内

(時間：午前10時～正午)

- 1月 9日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会・感話：大手 美千代  
聖書講話：マルコによる福音書 10章46～52節  
「盲人バルテマイの信仰とイエスの救い」 水戸 潔
- 1月23日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会：武井 めぐみ 感話：大屋 智代  
聖書講話：イザヤ書 56章1～8節  
「わたしの家は すべての民の祈りの家と呼ばれる」 武井 陽一
- 1月30 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)  
司会：生江 扶左子 感話：伊藤 純子  
聖書講話：アモス書8章1節  
「主の言葉をきくことのできぬ飢饉 予言者に思う」 溝口 春江

・・・通 信・・・

### 復活の希望

溝口 正

イエスは十字架上で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」(わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか)と、神に疑問を投げかけて息絶えた。たしかにイエスは、死の瞬間、父なる神に見捨てられたと感じられたのである。我々もまた、「神の御子がなぜ？」と天を見上げて問いを発する。

しかしイエスの生涯を見よ。イエスへの疑問を通して我々に深い神の真理が示される。イエスはこの世のどん底に生まれることによって、どん底の人々と連帯し、悔改めの必要な罪人と連帯するために、身を低くしてヨハネから洗礼を受け、この世で過酷な侮辱を受けている人々と連帯するために、最も悲惨な侮辱に耐えられた。すべての人を愛し給うために…。

「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」の悶絶死も、我々罪人が当然神に見捨てられる苦しみと死を、神が罪なきイエスに真先に味わわせたのではないか。それは神に見捨てられて当然の我々を救うために、神が涙と共にうち給うた先手ではないだろうか。

しかし見よ、その絶望の死の淵から、全能なる神はイエスをよみがえらせ給うた。死は終りではなく、その先に、復活があったのだ。復活の力はキリストの父なる神にのみある。神は愛である。命である。全能である。御子キリストの十字架の苦しみと死は、罪深き我らを永遠の滅びから救い出すための神の御業であった。我々は、これを心に信じたとき、現実の罪の赦しと復活の希望を与えられる。

それゆえ、イエス・キリストを信じる者は、召される時が来ても、安心してこの世を去ることができる。主のよみがえりに与かる希望を抱いて…。

(2000年4月 『復活』第401号)